

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	2775502533
法人名	医療法人 阪本医院
事業所名	グループホーム悠久
訪問調査日	平成20年1月30日
評価確定日	平成20年3月3日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	2775502533
法人名	医療法人 阪本医院
事業所名	グループホーム悠久
所在地	大阪府八尾市山畑5-1 (電 話) 072-941-3222

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年3月3日

【情報提供表より (19年 10月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10人	常勤 7人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建 3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分
------	---------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50.000 円		その他の経費(月額)	22.000 円	
敷 金	有(100. 000 円)			無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() ○無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円	
	夕食	600 円	おやつ	0 円	
	または1日当たり 円 月額 円				

(4) 利用者数の概要 (9月30日現在)

利用者人数		18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1		0 名		要介護2		5 名
要介護3		5 名		要介護4		4 名
要介護5		4 名		要支援2		0 名
年齢	平均	85 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人阪本医院 医療法人若弘会若草第一病院 医療法人山本歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者の父君から2代に亘る地元医院として地域医療に携わってきた実績と信頼が、開設2年半の歩みの中に顕れている落ち着いた雰囲気ของกลุ่มホームである。職員も有資格者の比率は低い、同法人事業所からの介護・看護の経験者の異動希望者が主となり、管理者を筆頭にお互いの得て・不得手を補い連携をスムーズに図りながら、ケアの質向上に努める姿勢が利用者の穏やかな様子に見てとれる。重介護度利用者が半数を占め、家族共に終末ケアを望むことに真摯に応えようとしている。07年11月の地域文化祭への出展参加が、地域へグループホームの存在をアピールし、地域青年団の協力など認知症高齢者への理解の一助になったことは確かである。また、事業所・職員に地域密着の有意義を再認識させることとなり、当ホームが地域コミュニティの核になることを大いに期待するものである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「外部研修の内容を全職員が共有し活用すること」については、交替で研修に参加し必ず報告書を作成する。その報告書を基に内部研修を行い、やむを得ず欠席の場合は閲覧するシステムをとっている。日々の引継ぎ時に、必要に応じてその内容確認を行うようにもしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各人の自己評価と調査票による評価とを対比することで、自己の反省と事業所の課題を見出して改善に努めている。特に地域密着については認識をあらたにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催、主要メンバーの参加もあり、会議録も完備している。特に老人会からの出席希望者があり、地域行事などへの参加について積極的な発言がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・不安などはないが、【汚れたという感覚が鈍るから失禁パンツはダメ】との家族の意見からトイレ誘導に気を配りほぼ成功した例がある。【職員のやり易いように】はケアではないことを学んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	閉鎖的な地域に在るが、近隣からの利用者が多いことや代表者の医院院長という利点もあって、散歩途中の声かけ、野菜や花の届け物など地域との交流は比較的うまくいっている。地域業者の援助による観光バスでの海遊館へは、老人会の参加希望があり合同行事となる予定である。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の法人全体による理念を見直して、「地域に溶け込み、ふれあい、地域と支え、支えられる関係を作る」を明記したグループホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	エレベーター前や目につきやすいところに掲示し、申し送り時に唱和し確認している。職員が日々の、地域行事参加での地域住民の協力に感謝の念を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近接の小学校での夏祭り、昨年初めての地域文化祭への参加で、利用者が顔なじみの住民とのふれあいを楽しんだ。地域の廃品回収に協力している。今年は夜警や近くの川の草刈にも参加を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に2回のホーム独自様式による各人自己評価と、外部及び自己評価との比較を行い、反省と課題の改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、特に地域老人会の積極的参加と市担当者＝包括センター職員の他のグループホームなどの情報・助言・意見が大きく役に立っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	種々の相談・指導は主に電話で行っている。運営推進会議に欠席の場合は必ず議事録を送付し、意見を聞いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	親族が遠方の2人の月1～2回の他は、殆どの家族が週に1～2回の面会があるので、その都度必要に応じて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はある。面会時の意見や相談に丁寧に應對し、ケアに活かしている。家族の言葉に気付きを貰い、ケアの見直しをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに職員の異動はなかった。新人入社については、利用者に先生役を担ってもらう方法で馴染みを深める努力をする。現在、2・3階共に職員の固定配置を図り、一層の馴染みを深めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会には交替、参加費・交通費弁済で参加している。参加者は必ず報告書を作成し、それを基に日勤者の研修、欠席者は内容の閲覧をしている。必要に応じて引継ぎ時の確認も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市のケアプラン勉強会への出席で同業者との交流がある。ゲーム・駄菓子屋さん・お茶会を企画して、近接のグループホームを招待し利用者・職員ともに良い交流の機会を持っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に面会に出向き、事業所訪問での食事や外出同行で馴染みの関係作りをしている。また入居までに馴染みの家具・調度品で部屋を設えるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夫々の大変な時代を生き抜いてきた利用者に尊敬の念を持ち、小さなサインを見落とすことの無いように努め、職員のし易いように を戒めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者夫々の生活暦や家族からの聴き取りなどを参考に、一人ひとりの思いや希望をくみとる努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・関係者との話し合いは十分にしている。日々のありのままの仔細なケース記録と、そのまともを基にした話し合いで介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のサインを見落とすことのないよう、臨機応変に計画の作成に当たっている。週に2回のケアチェック、3ヶ月ごとのカンファレンス、6ヶ月毎に計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がある。事業所併設の医院より、週1回の医師による健康チェックがあり、それによる助言と必要時の訪問看護があるので、家族は安心している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所併設の医院院長の父子2代に亘る開業への信頼から、入居の際に家族から主治医希望があり、全員が院長を主治医としている。診療科・状況によっては利用者や家族の希望する医師の医療は受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応・終末期ケア対応指針を掲げ、入居時に説明して同意を得るようにしている。職員に同法人施設での看取りの経験者が居ることは心強い。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法についての勉強会を行い、年2回の自己点検表にも項目を掲げて再確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、声かけや会話から、体調による食事時間の変更や入浴などを調整している。職員のペースで仕事をしないを旨としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理担当職員(免許あり)が利用者と買い物に行き、材料を吟味して整え、利用者の好みや身体状況に合わせて調理している。軟らかく・塩分控えての個人的対応をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、毎日入浴している。足浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度者の割合が大きい、「一人ぼっちにはさせない」ように心配りしている。習字の得意な人の特技が一目置かれることで、お互いが認め合う雰囲気生まれ、利用者同士のやり取りが始まるようになり、諸事に役割分担がスムーズに行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩と距離や程度は夫々だが、好天日には戸外に出るようにしている。散歩途中の喫茶店が楽しみの利用者が居る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所当時は建物外への危険もあったが、寄り添いと思いを受け止めるケアの継続で、戸外へ出ることはなくなった。出たらついて行けばいいとして、鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施しているが、地域との連携には至っていない。	○	運営推進会議でみえた地域防災組織の不備を補う意味からも、災害対策について地域の協働共助のきっかけ作りをしていくことを期待する。また利用者個人用の緊急避難リュックなどの検討も望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人施設の栄養管理士の助言を得ながら、個々人に合わせた食事＝内容・量・時間を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室ともに清潔である。玄関も雰囲気よく入りやすい。リビングは採光もよく、ソファの配置もあり寛ぎのための設えにも工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個人の好みが見られ、居心地の良さが感じられる。転倒に備えて畳み敷きのところもある。		